横浜市立鴨志田緑小学校

学校 HP 更新中　鴨志田緑小学校　検索

学校だより　１０月号

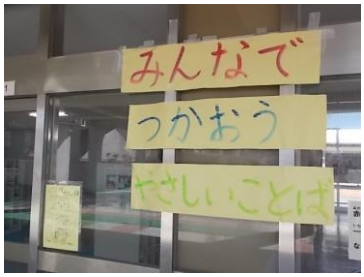
令和４年９月30日発行

ふるさとに学び　ふるさとで遊び　ふるさとを愛する子　～ふれあいかがやき豊かな心～

やさしい言葉

校長　　杉山　波也

朝夕はだいぶ涼しくなり、秋の訪れを感じるようになりました。朝、校門に立っていると、子どもたちから、「今日は涼しいから、全部で３枚服を着てきました。」「今は涼しいけれど、昼間は気温が上がるんだって。」など、秋の陽気に関することを話してくれることが多くなりました。私にとって毎朝の登校時間は、季節の変化を感じながら子どもたちを迎えることができ、また、様々な子と話すことができるとても大切な時間です。

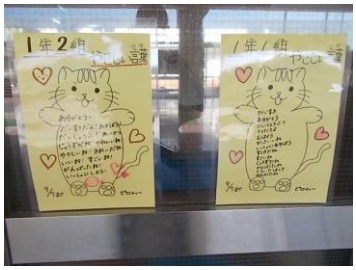


今、昇降口には、心が温まる「やさしい言葉」がたくさん掲示されています。これは、広報・福祉委員会の提案で代表委員会にて話し合われた「やさしさいっぱい大作戦」の取組の一つで、言ってもらえたらうれしい言葉を各クラスで出し合い、まとめたものです。この取組には、「思いやりややさしさいっぱいの学校にしたい。」「やさしい言葉をみんなで意識して生活していきたい。」など、子どもたちの思いが込められています。

・ありがとう　・一緒に遊ぼう　・やさしいね　・手伝おうか　・元気出して　・楽しかったね
・一緒に帰ろう　・ドンマイ　・一緒にやろう　・上手だね　・いいね　・ナイス　・あと少し
・がんばれ　・だいじょうぶ　・がんばったね　・うれしい　・いい考えだね　　等

上記以外にも、たくさんの「やさしい言葉」が記載されています。読んでいるだけでも心が温かくなるので、よく昇降口に足を運んでいます。何度も立ち止まっては「実際に声をかけてもらえたら、もっとよい気分になるだろうな。」と思いながら様々な言葉に目を通しています。

私には、学校生活の中で子どもたちから「やさしい言葉」をかけてもらい、心が温かくなる場面があります。私は、給食返却時に、給食室前で片付けの手伝いをしています。主に、各クラスの担当の子が持ってきた牛乳パックやリサイクルプラをポリバケツに入れるのを見守っているのですが、牛乳パックがたまってくると子どもだけではうまく中に入れることができません。その際に、私がバケツに手を入れて隙間をつくってあげると、何人かの子が「ありがとうございます。」と言って、上手に揃えながら入れてくれます。私も「どういたしまして。」と、その子にねぎらいの気持ちも込めて言葉を返しています。少しのやり取りなのですが、「ちょっとした言葉が、人を明るい気持ちにする」ことを、子どもたちが気づかせてくれる、とても貴重なひと時となっています。



この取組を通して、「やさしい言葉」がたくさん広まり、皆で力を合わせて今まで以上にやさしさいっぱいの鴨志田緑小にしていくことができたら、とても素晴らしいなと思います。かもリンピックへ向けた取組も始まりました。これからも、自分たちの学校を自分たちでよりよくしていこうとする子どもたちの姿を温かく見守り、職員一同、応援していきたいと思います。